

今後の聳島アホウドリ新繁殖地形成事業の実施計画（案）

1. 実施内容

- ・ 調査員の現地入りは 1 月下旬。
- ・ 移送するヒナは 2008 年より 5 日若い 35 日齢（移送予定日は 2/5-10）。
- ・ 移送ヒナの体重は 3.5kg 前後と予測される ($BM=6.415*EXP(-EXP-0.057*(Age-21.5))$)。
- ・ 移送数は 15 ヒナ（利用するへりに 1 度に載せられる最大数）。
- ・ 飼育方法は 2008 年と同じ。
- ・ 聳島、鳥島のヒナ各 5 羽（ヒナ数、両島で行うかは獲得資金次第）に衛星発信器を装着し、巣立ち後の行動を追跡する。

2. 2009 年以降の改善点

- ・ 音声装置の問題のない出力（少なくともヒナに成鳥の声を聞かせることは重要）。
- ・ 安全性、機器の保管、作業効率向上のために聳島にプレハブ 1 棟（約 21m²）を設置する。
- ・ 2008 年は巣立ち後の生存に重要と思われるワックスエステルを与えるためにクジラを与えたが、2009 年以降はオキアミを準備。

3. 今後のスケジュール

2008 年

10 月 デコイの設置、音声装置の出力開始、小笠原の関係者への事前連絡

2009 年

1 月下旬 鳥島、聳島でヒナの移送・受け入れの準備を整える。

2 月上旬 鳥島から聳島へヒナを運ぶ

5 月下旬 ヒナに発信器を装着、キャンプ設備・デコイの撤去、音声装置の出力停止、住民説明会での結果報告